

News Release

2014年4月22日
株式会社野村総合研究所

テレビ番組の「録画を含めた視聴」は、 リアルタイム視聴の約1.21倍 ～国内5エリアで地上波とBSの番組について、視聴実態を調査～

株式会社野村総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：嶋本 正、以下「NRI」）は、2014年3月、国内の5エリアを対象に、地上波およびBS放送のテレビ番組について、視聴実態調査（以下、「本調査」）を実施しました。

現在、BS放送の視聴可能世帯は約3,400万世帯となり、CS放送についても多くの世帯が視聴可能となるなど、テレビ放送は多様化しています。一方、ハードディスクを利用した録画機の急速な普及や、テレビ放送の視聴が可能なパソコン、スマートフォン、タブレット端末の出現により、生活者の視聴環境も大きく変化しています。

NRIでは“多様な視聴実態を把握”することを目的に、5エリア（北海道、関東、中京、関西、九州）において、合わせて7,500名の男女個人に対し独自にインターネット調査をおこないました。

本調査から得られた主な結果は、以下のとおりです。

■ 地上波で録画を含めた視聴の比率が最も高いのは「海外ドラマ」の約2倍。性・年代やエリアでの差はほぼ無い

地上波放送の番組に関して、リアルタイム視聴（放送時間中の視聴）に対する、録画を含めた視聴（リアルタイム視聴に加え、録画して後から見る分を加えたもの）の比率を求めると、1.21倍であることがわかりました。（図1）

ジャンル別でみると、ドラマで録画視聴する人の割合が高く、海外ドラマでは2.04倍、日本のドラマで1.63倍、となっています。その他のジャンルで録画を含めた視聴の比率が高いものは、アニメ：1.75倍、映画：1.74倍などです。スポーツ（1.11倍）、情報番組（1.06倍）、ニュース（1.02倍）などは、録画せずにリアルタイムでみている割合が高くなっています。

性・年代別では1.16倍～1.27倍の範囲内であり、録画をしている割合に大きな差はないといえます。（図2）

また、エリア別でも1.18倍～1.23倍の範囲内となり、大きな差はありません。（図3）

■ BS放送は2.02倍。「アニメ」が特に高く、3.53倍

地上波とBS放送を比較すると、録画を含めた視聴とリアルタイム視聴の比率は、地上波で1.21倍であったのに対し、BS放送の場合は2.02倍となっており、録画して視聴する割合が高くなっています。

BS放送で、録画を含めた比率が高いジャンルとしては、アニメ：3.53倍、海外ドラマ：3.36倍、映画：2.89倍などがあげられます。また、日本のドラマは1.65倍で、地上波の1.63倍と同程度の水準となっています。

一方、BS放送の場合は、ニュースを録画する割合も高く、地上波：1.02倍に対して、BS放送のニュースは：1.15倍となっています。(図4)

■ 録画した番組をタブレットやパソコンなどで見る割合は4.9%

録画した番組を、タブレットやパソコンなどテレビ受像機以外の機器で見る割合（地上波・BS放送の両方を含む）は4.9%で、タブレットやパソコンなどで録画番組を楽しむライフスタイルが徐々に広がっていると考えられます。

ジャンル別では、ドキュメンタリーが6.4%、バラエティとアニメが5.3%、スポーツが5.2%となっています。海外ドラマは1.6%であり、テレビ受像機以外の機器で見られている割合は低くなっています。(図5)

NRIでは、上記の「テレビ番組視聴実態」調査に加え、「雑誌／新聞の閲読」、「交通／流通チャネルの利用」、「Webサイトの利用」などについてのデータを、同一の生活者から収集しており、それら広告媒体間の利用の重なりを把握することが可能です。また、番組別に「他人への推奨度（ロイヤリティ）」や「商品購入への影響度（購入意向喚起）」など、“視聴の質”についても調査しています。

本調査の詳しい結果は、<http://www.is.nri.co.jp/actual/>をご参照ください。また、消費者の行動と企業の施策を見える化するサービス「Insight Signal（インサイトシグナル）」の詳細は、<http://www.is.nri.co.jp/>をご参照ください。

【ニュースリリースに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部 清水、香山

TEL：03-6270-8100 E-mail：kouhou@nri.co.jp

【調査結果に関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所

消費サービス・ヘルスケアコンサルティング部 塩崎、松本

TEL：03-5533-2647 E-mail：is@nri.co.jp

【ご参考】

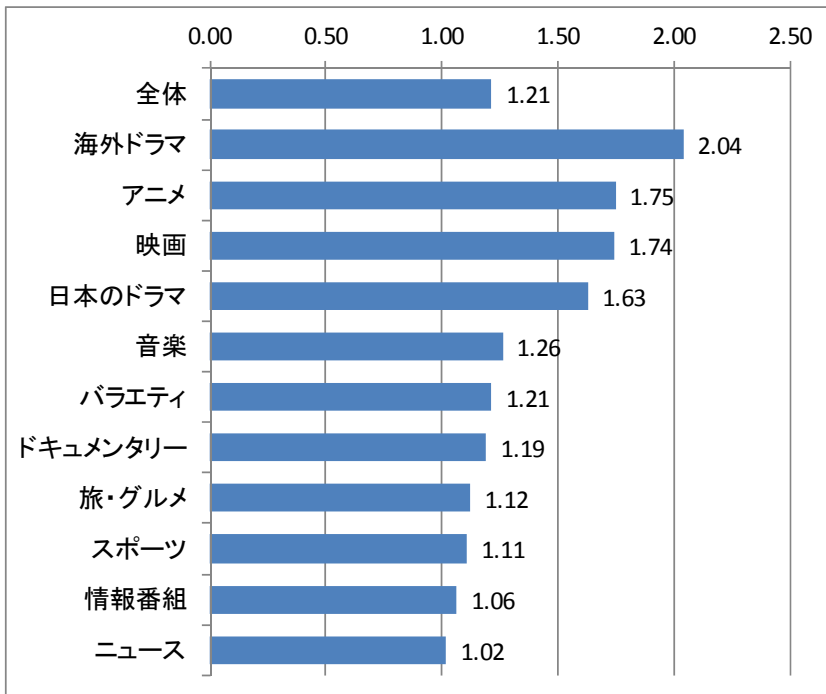
1. 調査概要

- ・調査名 「視聴実態調査」
- ・調査目的 テレビ番組の視聴実態の把握
- ・調査時期 2014年3月3日～3月16日
- ・調査方法 インターネット調査
- ・調査対象 5エリア（北海道、関東、中京、関西、九州）に居住する男女個人。
各エリアは、エリア内の中核となる放送局の番組が、共通して視聴可能な範囲で設定。
北海道：札幌エリア、関東：茨城県・栃木県・群馬県・千葉県・埼玉県・東京都・神奈川県、中京：岐阜県・愛知県・三重県、関西：滋賀県・奈良県・京都府・大阪府・和歌山県・兵庫県、九州：福岡・北九州エリア
- ・サンプル数 7,500 サンプル（男女 20 歳～69 歳）各エリア 1,500 サンプルずつ、エリア内の性・年代の構成はエリア別の人口構成比で割り付け。ただし一部でサンプルが不足した属性では近い年齢の属性のサンプルで代替。
- ・回答数 1 日以上回答のあった有効回答数は 5,089。
2 週間にわたる調査のために回答率は日によって異なるが、テレビ番組の視聴実態の調査の回答率は、有効回答数の 70～80%程度。
回答率が属性により異なるため、回答者の分布は、必ずしも人口構成比にはならない。
- ・集計方法 実際に視聴もしくは録画した番組を各回答者から挙げてもらい、番組別にリアルタイム視聴済か録画視聴予定かを調査・集計。ただし、回答者が 30 未満の番組は集計対象から除外。
各番組別の集計結果の平均値を計算。エリア別に放送されている番組が異なるため、各エリアで集計対象となる番組は異なる。また、エリア別の人口に基づくウエイトバック等を行っていない。
- ・主な調査項目 **【テレビ番組の視聴実態】**
 - －地上波テレビ番組：キー局系列＋NHK
 - －BS 放送の番組：キー局系列＋NHK+WOWOW+11/12/Dlife
 - －その他の BS、CS 放送のチャンネル別視聴実績
 - －番組別の視聴方法（リアルタイム／録画）
 - －番組別の視聴媒体（テレビ受像機／パソコン／携帯端末など）
 - －ハードディスクレコーダーで録画する番組のジャンル
 - －CMをスキップする割合、頻度**【テレビ番組以外の調査項目】**
 - －雑誌別の閲覧実態（主要 180 誌）

- 新聞の宅配、閲読実態（全国紙5紙及び地方紙）
 - ※閲読頻度／精読状況を含む
- 鉄道（路線）の利用実態（利用路線、主要な駅の利用状況）
- インターネットの利用実態
 - （利用時間、SNS利用実態・利用意向、携帯サイトの利用実態）
- ラジオの聴取実態（ラジオ視聴時間、よく聴くラジオ局）
- 利用する流通チャネルの利用頻度
 - （コンビニエンスストア／スーパー／ファーストフード）
- 【消費スタイル】
- 消費価値観、イノベーター度 等
- 【商品カテゴリ別の購入実態・意向】
- 食品、飲料、日用雑貨、医薬品、金融、耐久消費財、旅行、サービス
など42品目
- 【基本属性】
- 性・年代、職業、家族構成、所得、趣味 等

2. 分析結果の図

図1 ジャンル別にみた「録画を含めた視聴」のリアルタイム視聴に対する比率（地上波放送番組のみ、5エリアの単純合計、全年代）



※「録画を含めた視聴」のリアルタイム視聴に対する比率：

リアルタイム視聴（放送時間中の視聴）に対する、録画を含めた視聴（リアルタイム視聴に加え、録画して後から見る分を加えたもの）の比率

図 2 性・年代別にみた「録画を含めた視聴」のリアルタイム視聴に対する比率(地上波放送番組のみ、5エリアの単純合計)

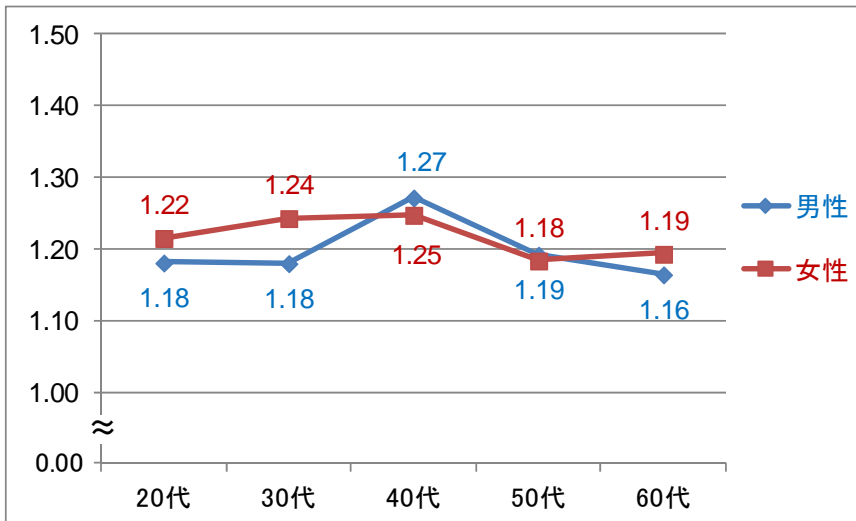


図 3 エリア別にみた「録画を含めた視聴」のリアルタイム視聴に対する比率(地上波放送番組のみ、全年代)

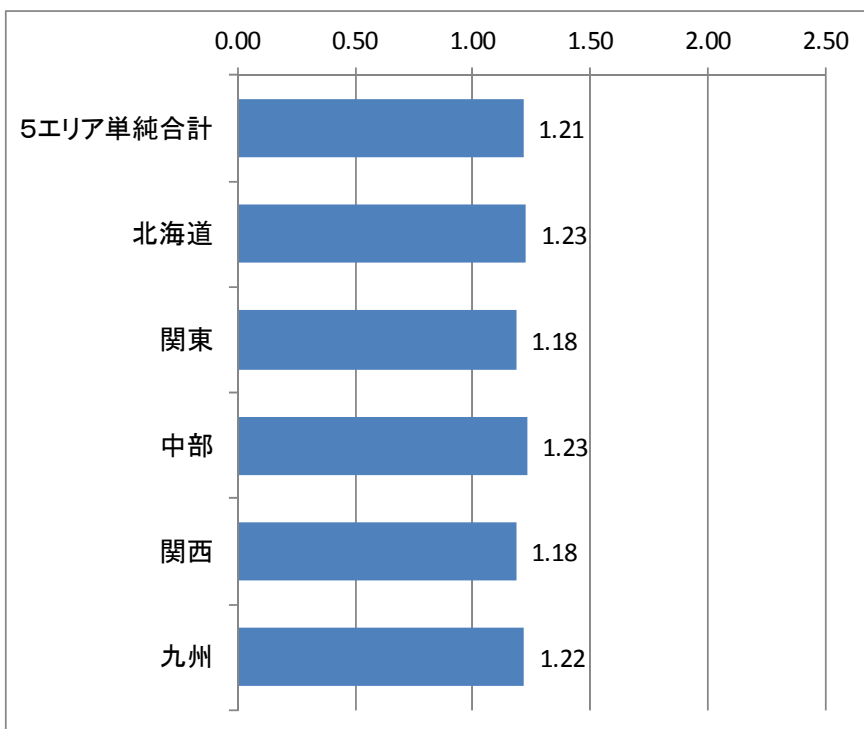
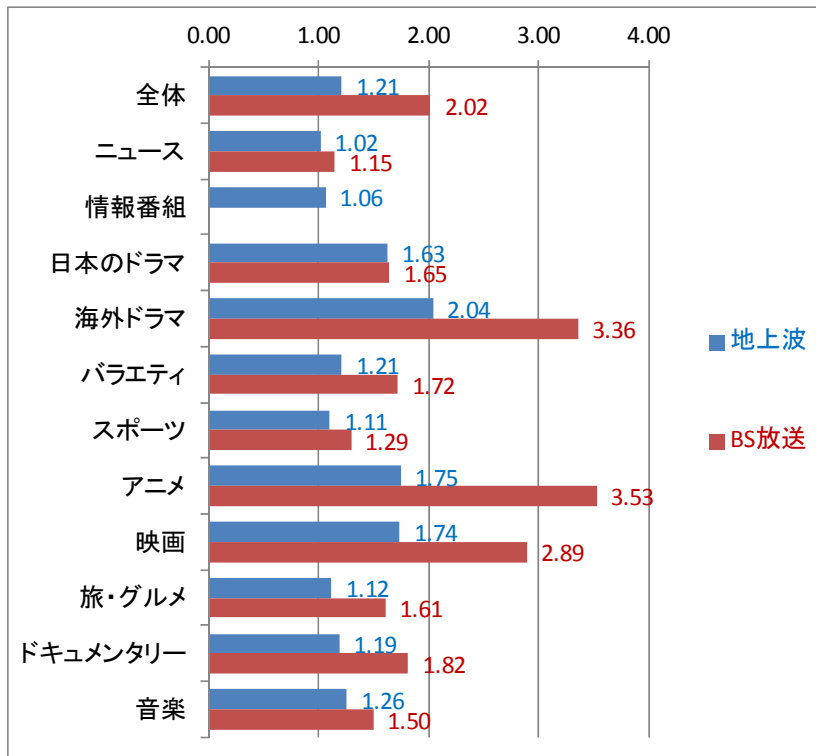


図 4 ジャンル別にみた地上波・BS 放送の「録画を含めた視聴」のリアルタイム視聴に対する比率(5 エリアの単純合計、全年代)



注) BS 放送の「情報番組」については対象番組数が少ないため、集計対象から外した

図 5 ジャンル別にみた録画した番組をタブレットやパソコンなどのテレビ受像機以外の機器で見る割合(地上波・BS 放送を集計、5 エリアの単純合計、全年代)

